

【東近江市】市民共同発電所の取組みと地域活性化について

市民共同発電所の特徴は、「市民の出資により設置した太陽光発電設備の運用により、発生した電力を売電することで収入を確保し、収益を地域商品券により出資者に還元する」ことで、環境推進と地域活性化を同時に推進しております。

再生可能エネルギーの固定買取価格は年々下落しており、今後の事業実施には慎重な検討が必要ですが、民間の活力を主体とした、官民協働による地域密着の取組みは、当市においても参考にするべきものでした。

【福井市】消化ガス発電施設について

消化ガス発電施設は、汚泥処理過程で発生するメタンを主成分とした消化ガスを有効利用して発電する施設であり、発生した電力の一部を発電設

備内部で消費し、残りを受電設備に送電し、発生電力を施設内で利用しています。

平成24年度から2か年で整備されたこの施設の事業費は3億4100万円余りで、国土交通省の社会資本整備総合交付金の活用により約2分の1の補助を受けて施工しております。

平成26年2月から運用を開始し、4月から6月までの実績は、電気料金の削減額に換算すると925万円となっております。



消化ガス発電施設（福井市）

【春日井市】街づくり支援制度について

この制度は、「緊急車

両が通行できない」「区画整理で整備しきれない道」など、安心して暮らせる生活基盤が整っていない地域の課題解決について、協働によるメリットを最大限に活かし、効率的に基盤整備することができる仕組みとして制定されました。

制度の流れは、生活基盤の整っていない地域等の住民の発意により始まり、推進団体の設立、計画案の作成、計画決定、工事施工までの5段階のステップになっております。これらの手続きは住民が主体となって行われ、行政は技術面・費用面での支援を行うこととなります。

事業が完了した地域の住民からは「子どもや老人が安全に通行できるようになった」、「地域で協力して生活環境の改善に繋げることができて嬉しい」等の歓迎の声があるとのことでした。

議会広報編集委員会

*視察日：平成26年6月24日～25日

24日～25日

*視察先：埼玉県寄居町株式会社社会議録センター
【寄居町】議会だよりの編集方針と作業行程について

「寄居町議会だよりのお元気ですか 寄居議会です」は、平成25年度全国町村議長会広報コンクールにおいて奨励賞を受賞、その特徴は、広報編集委員会に印刷業者の担当者が出席し、レイアウトや書体・写真の大きさなどの校正箇所をパソコンで修正、編集委員の意向をその場で組み込み、即座に確認できる体制を取っております。

議会だよりの名称を「お元気ですか 寄居議会です」として発刊、表紙を「よりの笑顔」をテーマに、「町民の笑顔」を掲載するなど、堅いイメー

ジがなく親しみ易さを感じる表紙となっております。

平成20年度から町村議会広報コンクールに参加したことにより、その後の編集作業では、工夫を積み重ねるなど議会だよりの編集への取り組み姿勢が変わったというお話をいただきました。



（株）社会議録センターで研修

【株式会社社会議録センター】広報編集の技法「おうしゅう市議会だよりの診断」

会議録センターでは、限られた紙面で、議会の重要な広報活動をサポートするという観点から、レイアウトから分りやすい表現、文体統一など

「提案型編集サポート」として地方議会の広報編集に携わっております。地方議会の知識を有する専任担当者を編集委員会に派遣、難しい議会用語も用語解説を加え、分りやすく置き換えるなど、きめ細かな対応を行っております。

当市議会だよりを診断していただき、「大見出しで議会の意気込みが伝わる」「用語解説があり分りやすい」「市民が参加できる記事がある」といった評価をいただきました。また「あらましの文字量が多い」「記事によって字の大きさや行間が統一されていない」「写真・余白が少ない」など、多くの指摘をいただきました。議会と市民をつなぐ大切なものであり、ただ単に記事を紙面に盛込むことだけでなく、見やすさ・分りやすさを更に追求した編集作業が必要であると感じてまいりました。